

(1) 基本的に

上焦の病は、体の内側の横隔膜より上に主な症状が出る病で、呼吸循環器系とも言える。邪気によることが多く、手の陰経に引きやすい。また、横輪切りの背中の横隔膜より上や、症状の出ている辺りの胸側にもツボが出る。

中焦の水毒や下焦の瘀血・虚などが原因のことが多く、そのときは、腹や、足の陰経・陽経、横隔膜から下の背中側にもツボが出る。

また、上焦の下部に水毒が溜まることもあり、咳や痰の原因になる。

(2) ツボが出やすい所

① 手の陰経

触診して臈中より上の症状は手太陰、そこより下の症状は手厥陰に出やすい。胸郭内部背中側の症状は手少陰に出やすく、特にその左側には心臓に関係するツボが出やすい。

急性症状が出ているときには、鍼では手首の近くを使う（手平は痛いので）。咳なら列缺、吐き気なら内関、不整脈なら左陰郄。灸では、手平や指のツボも使う。労宮、裏合谷、親指節紋橈側など。慢性症状のときには、肘の近くの上腕より出る。長引く咳には上尺沢。臈中より下の症状のときや中下焦が原因のときは上曲沢が多い。

② 背中（陽位）

横隔膜より上の1,2行線、督脈、華佗経に出る。慢性期には、外側や正中の近くの督脈・華佗経によく出る。特に、古いツボは、筋肉の厚い所、華佗経や肩胛骨の周りによく出る。

呼吸器系では肩胛骨の上半分に多く、慢性期の呼吸器系の病では、肩胛骨外側の肩貞と胸椎3辺りの華佗経。

心臓系では、左肩胛骨の下半分、特に下角の近く。

③ 胸腹部

胸腹部の症状の表面の近くにも出る。

呼吸器系では、中府、臈中と、その二つを結ぶ斜め線上で、肋骨を1本上がることに外寄りが出る。

循環器系では、左肋骨間の、特に下の方（心臓の位置の近く）に出ることが多い。

④ その他

水毒や悪血が原因のときは、横隔膜より下の背中や腹、足の陰陽経にも出る。「中焦：水毒の病」、「下焦：悪血の病」を参照。

(3) 手順

慢性期の手順。

基本的には、ツボを考慮して慢性期の型で刺鍼。ただ、表位に症状が出ていることも多く、そのときは、先ず手甲の合谷などに引き鍼。また、胸上部から鎖骨・喉にかけてツボが出ていることが多く、肩頰の後に刺鍼し、それから頭散鍼・手甲引き鍼で後始末。

必要なら、凹んで冷えたり虚したりしている所や、華佗経などの古いツボに、灸・灸頭鍼をして、手の指端の灸で後始末。

灸や灸頭鍼と置鍼を組み合わせてもよい。うつ伏せで背上部を灸した後に、仰向けで胸の周りや手陰経の肘の近くを灸し、手指端の灸で後始末。手指端は目覚ましなので、施灸した後に寝られるときには省略してもよい。

表位の症状があるときや、原因が水毒・瘀血のときには、それぞれのツボを付け加え、座位→うつ伏せ→仰向けの順で上から下に施灸。

中焦の水毒や下焦の瘀血や虚が原因となっていそうなときは、上焦の症状が消えても、水毒・瘀血・虚が改善するまで治療を継続する必要がある。

要点

- ① 上焦の病は、邪気によることが多い
- ② 上焦の病は、手の陰経に引きやすい
- ③ 上焦の病は、手の陰経に引きやすい